

景気観測(LOBO)

«2024.7~9月»

令和6年度 第2四半期

日 立 商 工 会 議 所
情 報 化 委 員 会

I. 調査概要について

(1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7, 10, 1, 4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

(2) 調査対象並びに回収状況

業種	調査対象件数	回収件数	回収割合(%)
製造業	25	22	88%
小売業	25	21	84%
建設業	25	21	84%
サービス業	25	23	92%
計	100	87	87%

(3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項、売上高の推移と変化要因 採算・仕入/販売単価・従業員数・資金繰りの変化状況
調査方法	FAX・インターネット活用

(4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしよNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

◎LOBOとは「CCI(Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称。

◎DI値(景気判断指数)について

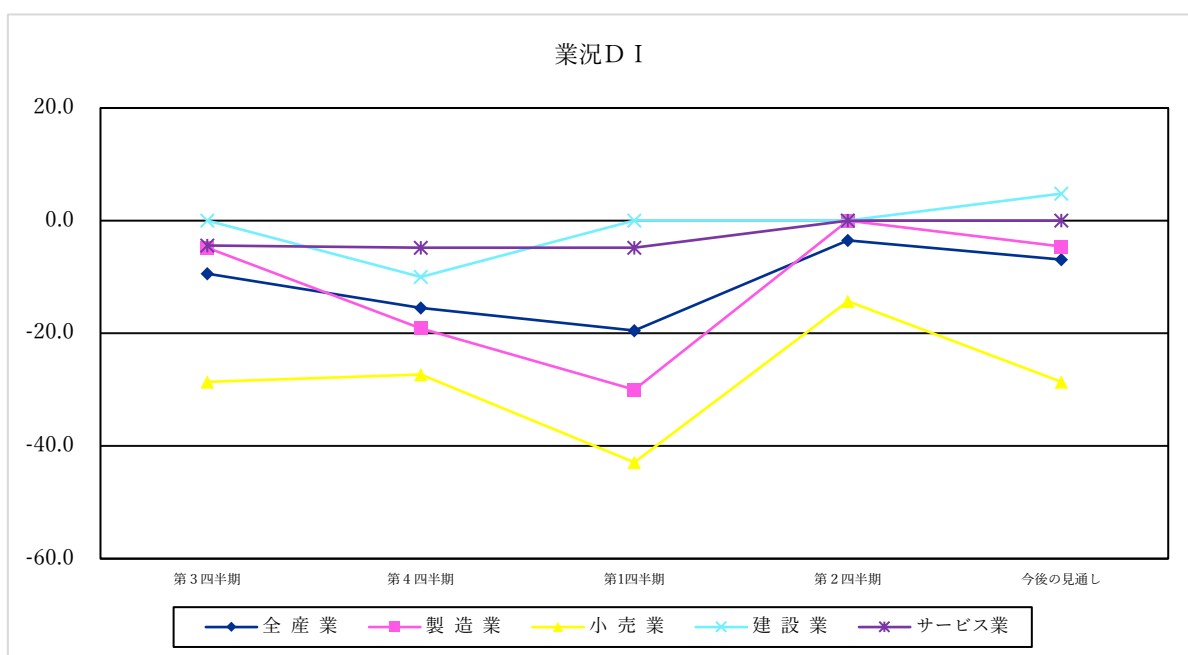
- ・DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(▲で下向き)
- ・強気、弱気等景況感の相対的な広がりを意味する。
- ・DI=(増加・好転・不足等の回答割合)-(減少・悪化・過剰等の回答割合)

II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲3.5と前回調査時(▲19.5)より16.0ポイントの改善。今後の見通しは▲6.9と今回比▲3.4ポイントの悪化が見込まれる。
- 製造業では、0.0と前回調査時(▲30.0)から30.0ポイントの改善。今後の見通しは、▲4.6で今回比▲4.6ポイントの悪化が見込まれる。
- 小売業では、▲14.3と前回調査時(▲42.9)より28.6ポイントの改善。今後の見通しは▲28.6と今回比▲14.3ポイントの悪化が見込まれる。
- 建設業では、0.0と前回調査時(0.0)と同ポイント。今後の見通しは4.8と今回比4.8ポイントの回復を見込む。
- サービス業では、0.0と前回調査時(▲4.8)より4.8ポイントの改善。今後の見通しは0.0と今回と同ポイントと見込む。

(1)業況DIの推移とキーワード

	令和5年度		令和6年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 9.4	▲ 15.5	▲ 19.5	▲ 3.5	▲ 6.9
製造業	▲ 4.8	▲ 19.1	▲ 30.0	0.0	▲ 4.6
小売業	▲ 28.6	▲ 27.3	▲ 42.9	▲ 14.3	▲ 28.6
建設業	0.0	▲ 10.0	0.0	0.0	4.8
サービス業	▲ 4.4	▲ 4.8	▲ 4.8	0.0	0.0



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製造業	コスト負担増加対策	価格転嫁	新規受注
小売業	原材料等高騰	消費者の節約志向	コロナから回復
建設業	技術者不足	コスト負担増加対策	年度末受注増加
サービス業	原材料等高騰	人員不足	コロナから回復

《全国との比較》

	令和6年度第2四半期		今後の見通し(10~11月)	
	全国(9月)	日立	全国	日立
全産業	▲ 14.1	▲ 3.5	▲ 13.4	▲ 6.9
製造業	▲ 23.4	0.0	▲ 15.4	▲ 4.6
小売業	▲ 18.7	▲ 14.3	▲ 18.2	▲ 28.6
建設業	▲ 8.4	0.0	▲ 7.5	4.8
サービス業	▲ 4.3	0.0	▲ 9.4	0.0

(2)売上高・採算・仕入単価・販売単価・従業員数・資金繰りの推移(DI値)

(売上高)

	令和5年度		令和6年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	5.9	▲ 6.0	▲ 11.0	4.6	3.4
製造業	9.5	▲ 14.3	0.0	4.6	▲ 9.1
小売業	▲ 14.3	0.0	▲ 23.8	▲ 14.3	▲ 19.1
建設業	0.0	▲ 5.0	▲ 5.0	4.8	23.8
サービス業	26.1	▲ 4.8	▲ 14.3	21.7	17.4

(採算)

	令和5年度		令和6年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 12.9	▲ 14.3	▲ 20.7	▲ 9.2	▲ 12.6
製造業	▲ 9.5	▲ 33.3	▲ 20.0	4.6	▲ 18.2
小売業	▲ 23.8	▲ 27.3	▲ 38.1	▲ 23.8	▲ 28.6
建設業	▲ 20.0	10.0	▲ 5.0	▲ 4.8	4.8
サービス業	0.0	▲ 4.8	▲ 19.0	▲ 13.0	▲ 8.7

(仕入単価)

	令和5年度		令和6年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 65.9	▲ 71.4	▲ 76.8	▲ 69.0	▲ 50.6
製造業	▲ 66.7	▲ 57.1	▲ 75.0	▲ 59.1	▲ 40.9
小売業	▲ 66.7	▲ 81.8	▲ 81.0	▲ 81.0	▲ 66.7
建設業	▲ 70.0	▲ 75.0	▲ 80.0	▲ 66.7	▲ 42.9
サービス業	▲ 60.9	▲ 71.4	▲ 71.4	▲ 69.6	▲ 52.2

(販売単価)

	令和5年度		令和6年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	31.8	36.9	40.2	42.5	26.4
製造業	28.6	23.8	55.0	36.4	18.2
小売業	57.1	68.2	42.9	66.7	47.6
建設業	30.0	35.0	25.0	38.1	28.6
サービス業	13.0	19.0	38.1	30.4	8.7

(従業員数)

	令和5年度		令和6年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	30.6	20.2	19.5	26.4	26.4
製造業	19.0	9.5	5.0	22.7	22.7
小売業	38.1	22.7	19.0	14.3	14.3
建設業	35.0	15.0	35.0	33.3	28.6
サービス業	30.4	33.3	19.0	34.8	39.1

(資金繰り)

	令和5年度		令和6年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 3.5	▲ 11.9	▲ 13.4	▲ 8.1	▲ 3.5
製造業	4.8	0.0	▲ 20.0	▲ 4.6	4.5
小売業	▲ 19.0	▲ 18.2	▲ 23.8	▲ 19.0	▲ 14.3
建設業	5.0	▲ 10.0	▲ 5.0	▲ 4.8	0.0
サービス業	▲ 4.3	▲ 19.0	▲ 4.8	▲ 4.4	▲ 4.4

(3)業種別概況

業種	概況
製造業	<p>業況感、売上・採算いずれも回復している。原材料等の上昇が若干落ち着き、販売価格への転嫁も出来ている様子が伺える。取引先によっては受注減少の報告も見られた。</p> <p>個別では</p> <p>「全体的に人手不足になっているが、固定費の増につながることから雇用にはやや慎重になっている。先行きが未だ不透明なため、人材派遣会社で一時しのぎの状況だが、職場の士気にはマイナスがある様子。」(組合)</p> <p>「新規取引先からの受注と、工場設備製品の受注により売上増加。」(電気機械器具製造業)</p> <p>「働き方改革による工期の遅延、価格高騰。2024年問題に関する物流対策。カーボンニュートラル対策。今後のエネルギーコストの動向。」(土石製品製造業)</p> <p>「更なる資材・経費と人件費の上昇。人員の不足が続いている。」(輸送用機械器具製造業)</p> <p>「電気自動車の影響か、自動車関連受注が不振。他分野への参入加速。」(輸送用機械器具製造業)</p> <p>「技術者増加に伴う売上増加。」(情報サービス業)</p>

	<p>「現在使用している機械のメーカーが数年前に倒産し、同業者にメンテナンスをお願いしてきたが、継続することが難しくなった。現在問題なく使用できている機械であるが、入替えを余儀なくされ残念である。」(印刷関連業)</p> <p>などの報告があった。</p>
<p>小 売 業</p>	<p>業況感、売上、採算いずれも回復している。原材料・光熱費等が高止まりするも、商品単価への転嫁が出来ている様子が伺える。コロナ以前に戻ってきているが、コロナを契機としたマイナス面もあるとの報告もある。</p> <p>個別では</p> <p>「人流も元に戻ってきたように感じるが、学校関係行事がコロナ禍時の影響か、設営方法が変わってきたような気がする。商品の価格変更を行い、今後、売上額は上がると思われる。諸物価の値上がりはあっても、特に驚いた話題にはなっていない。人件費も上がることは織り込み済みだが、対応への難しさが話題にあがる。そんな中、一部の話題として、扶養控除の見直しや廃止など、制度の対応遅れに対する声が大きくなってきたと感じる。」(食品製造小売業)</p> <p>「物価の値上がりが続いているためお菓子の購入は控えめになっている。原材料の値上げ、水道光熱費、最低賃金の上昇が止まらない。上がった原材料は以前の価格まで下がることがないため販売価格を上げるしかないが、なかなかお客様への理解が難しい。」(菓子製造小売業)</p> <p>「物価高騰による消費マインドの低迷。しばらくこの情勢が続くと思われる。」(織物・衣服・身の回り品小売業)</p> <p>「学校統合。部活動地域移行の現状。」(スポーツ用品小売業)</p> <p>「サービス業の新卒求人難。値上げに伴う仕入単価増加及び、価格転嫁対応。複数店舗におけるドラッグストア出店対策。最低賃金上昇に伴う人件費増対応。国の受入職種拡大による技能実習生の追加確保。」(食品スーパー)</p> <p>「冬季需要である灯油の動きが年々鈍化してきている。暖冬、設備の買い替えなどによる影響と考えられるが、今後の業界に大きなダメージを与える事は明白で、代替となる需要が求められる。」(燃料小売業)</p> <p>「変わらずの商品の値上がりが続いている。」(コンビニエンスストア)</p> <p>「物価高騰により商品価格を上げたため売上増加。商品価格が上昇しても取引先は納得している。」(事務機器販売業)</p> <p>「新車受注ができないことと、納期が伸びていることにより、中古車の市場価格が上がっている。」(自動車販売業)</p> <p>「盗難防止関連と合わせ、カーオーディオもここ数か月は好調。近隣自動車ディーラーなどからの仕事依頼もある程度多く、遠くは水戸、銚田あたりのディーラーもわざわざ車を運んで来てくれるので助かっている。昨今の車盗難などに対する盗難防止装置の品切れ、納品遅れでセキュリティー関連の仕事の段取りが、顧客の要望通りのスケジュールが組めない状況。突然バックオーダーが解消されるも、値上げや押し込まれるように納品されると発注スケジュールも狂うため支払いなどの調整も難しい。セキュリティー以外にも仕事はあるのである程度不安定でもできている状況である。こちらの予定通りの仕入れ、作業、支払いで回すことができるのであれば現在はすごくいい状況なのだと思う。」(自動車用品小売業)</p>

	<p>などの報告があった。</p>
建設業	<p>業況感は現状維持、売上、採算は共に回復している。人材・技術者不足は否めないが、年度末の繁忙期に向けて受注増加が見込まれ期待できる報告が多数あった。</p> <p>個別では、</p> <p>「公共土木工事の発注は順調。民間建築工事は価格競争が継続している。建設資材物価は高値安定の状態。」(総合建設業)</p> <p>「災害復旧工事が現在も続いている。高齢化による人手不足で人員確保が問題。」(総合建設業)</p> <p>「来年4月より改正される建築基準法の内容と経費費用の増加。これからの時代に対応出来る会社運営方法。技術者・技能者の育成(激減中)と確保。」(一般住宅建築業)</p> <p>「昨年同時期と比較すると、仕入単価や人件費の上昇も一段落の感じがあり、安定しているような状況に感じられる。しかしながら販売価格の上昇は、遅れて何とかついて行く状況で、利益率の上昇が厳しい。」(設備工事業)</p> <p>「材料の納品時期については、一時期に比べると落ち着いた感があるが、依然として余裕を持った発注が必要。材料の高騰は一段落。人材不足は相変わらず顕著で、業界全体としての退職率も高い水準にあり、技術者の確保が困難な状況。また、現場での資材盗難が多発している。特に太陽光発電所でのケーブル盗難が多い。」(設備工事業)</p> <p>などの報告があった。</p>
サービス業	<p>業況感、売上、採算いずれも回復している。原材料価格等の上昇や人員不足に悩まされてはいるが、コロナから着実に回復していると思われる報告が多数あった。</p> <p>個別では、</p> <p>「トラック運転手及び機工作業者の労働時間規制の「24年問題」への対応。標準的な運賃の普及・活用。適正運賃の収受。茨城県(県央、北部)への進出企業の動向。日立製作所 Gr 他主要企業の事業動向。」(物流業)</p> <p>「働き方改革により、運送業・建設業は時間外規制、土曜休工が実施されているが、運賃工事単価に転嫁できない。」(物流業)</p> <p>「社会経済活動が回復傾向にあるなか、イベント輸送の再開があった。運転士不足、労働環境変化による稼働確保に向けた採用活動の展開、待遇の改善。世界情勢不安による資源(特に軽油)価格の高止まりを懸念。為替の円安続伸・物価の上昇等に伴う経営環境悪化への対策として運賃値上を実施。利便性の高い公共交通利用環境の実現に向けて、DX化を推進。グリーントランスフォーメーションEVバスの導入促進」(物流業)</p> <p>「SNSの影響か売上増加した。食材価格の高騰。」(飲食業)</p> <p>「シンいばらきメシ総選挙で日立市(弐鷹さん)が準グランプリになりました。日立ホテル旅館組合でも「あんかけ飯応援事業」として「HITACHI 目光あんかけ丼(組合オリジナルレシピ)」をひたちシーサイドマラソンで400食ほど提供します。」(宿泊・飲食サービス)</p> <p>などの報告があった。</p>